

山口県産農産品からつくる新医薬品 ～山口から世界へ～

わたしたちは こんな企業(団体)です

山口県の農産品の中から健康に有用な成分の抽出と科学的な検証を行うことで、山口大学発の新医薬品の開発を目標とする学生プロジェクトです。現在はJA山口小野茶業組合をはじめ、宇部市農業振興課、萩市物産協会と産学官連携で共同研究を行っています。農産物を題材にした研究により、SDGsに適合した創薬開発を行っています。



研究メンバーと活動の様子

わたしたちの SDGs推進プロジェクト



2023年に県産青パイアの口腔がん抑制作用を世界で初めて発見しました。この研究からサプリメントを試験開発しました。また宇部市内の中高生にも学生研究員として農産品の探索と成分抽出に参加・協力して頂きました。

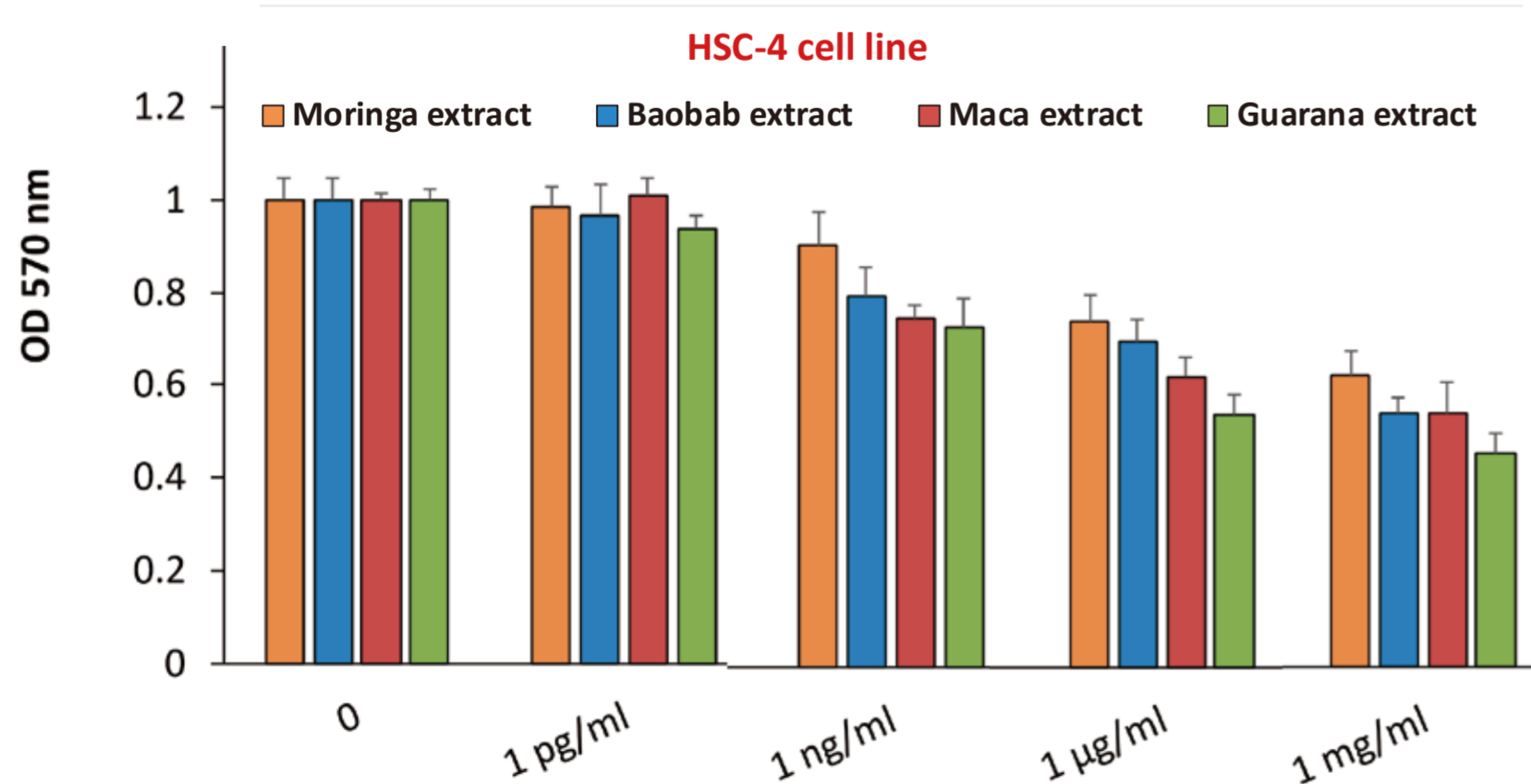
本年は常盤公園の温室でも栽培されているマダガスカル原産のバオバブをはじめ、ケニアのモリンガ、ボリビアのガラナなどの南米・アフリカ地方の農産物を現地を訪れ入手し、分析を行いました。

また札幌市で行われた国際学会ICNIM2025における発表や、宇部高等学校の文理探求科での科学授業への協力などを行いました。



アフリカの子どもたちと農産品

プロジェクトの実績



南米・アフリカの農産品の口腔がん細胞の抑制効果 (HSC4に対して:モリンガ・バオバブ・マカ・ガラナ)

細胞実験において口腔がん細胞株であるHSC4に対してはガラナ抽出物が増殖抑制効果を示し、一方で亜種であるHSC3においてはマカ抽出物が増殖抑制効果を示すことを明らかにしました。

今後の予定

これまで5年間に渡る活動で“山口から世界へ”を体現することが出来ました。本年度中には大学発ベンチャーを立ち上げて更に創薬研究に邁進すると共に、引き続き子どもたちへの科学教育にも取り組んで参ります。



ICNIM2025では統合医療推進議連の橋本聖子元五輪相に激励頂きました